

今、ここで見直したい「ケアの価値」とは

団塊世代ジュニアが65歳以上の高齢者になる2040年時点で、69万人の介護職員が不足する（厚生労働省（以下厚労省）「第8期介護保険事業計画に基づく介護職員の必要数」との予測がある中、次期24年介護報酬改定までに、現在の「看護介護配置基準3：1」の緩和を検討することが、内閣府規制改革推進会議の実施計画（5月27日）に明記された。

要件緩和の前提は見守りセンサーやICTなどテクノロジーや介護助手のフル活用により、タスクシフト（仕事を仕分けして割り振ること）を進めることで生産性を高め、利用者のサービスの質を保持しながら、介護職の負担感に繋がらないことが確認できた介護施設について「特例的に柔軟化させる」という考え方。

生産性向上を前面に打ち出した内閣府の計画に「介護はモノづくりの現場ではない。サービスの質低下や、介護職の負担増につながりかねない」とする介護施設や、慎重に検討を進めたい厚労省との間に温度差もあり、24年介護報酬改定までは曲折が予想される。

● 厚労省「要件緩和の判断」検証始める

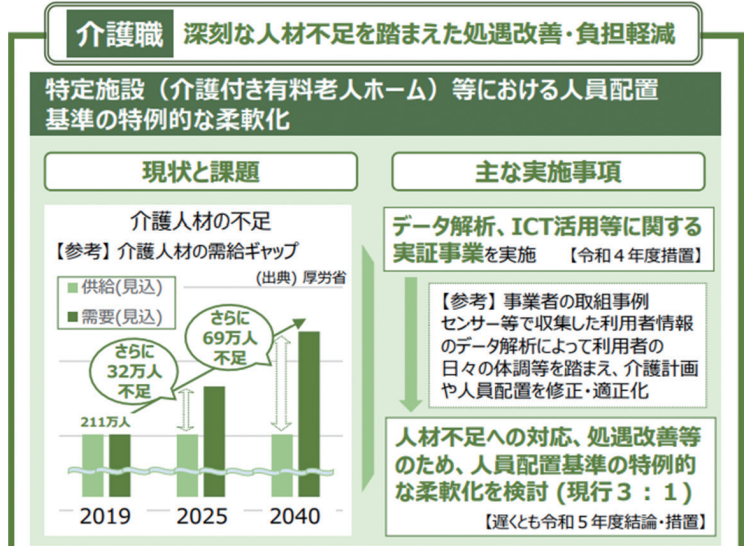
こうした中、厚労省は全国の介護施設で「テクノロジー活用等による生産性向上の取組に係る効果検証事業」を開始した。業務時間の変化などの生産性向上の指標だけでなく、サービスの質の低下がないか（利用者のADL、認知機能、意欲等に関する評価、ケア記録内容等）、介護職の負担となっていないか（職員の勤務・休憩時間、心理的不安、意欲の変化等）などの指標も駆使して、慎重にデータを収集する。22年度内に報告をまとめ、23年度の介護給付費分科会の判断に活かす。

● 介護現場に求められる付加価値生産性

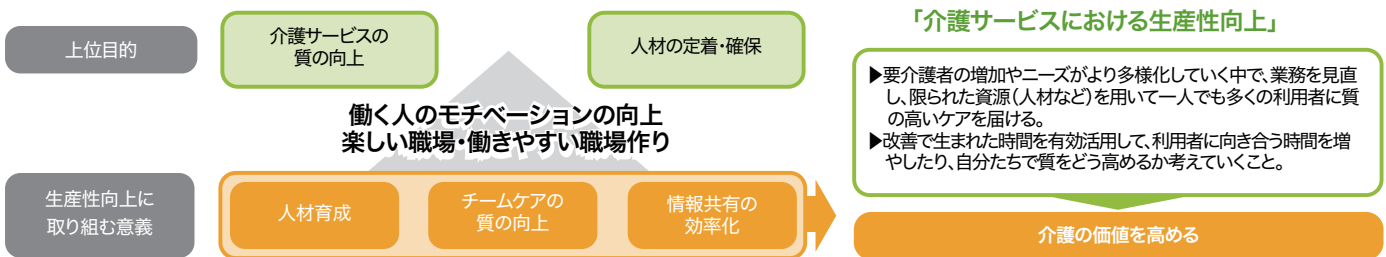
介護現場には「生産性向上」に対する警戒感は根強い。全国の特養が加盟する（公社）全国老人福祉施設協議会（平石朗会長）が8月5日、厚労省に提出した要望書の中で▽業務時間が何時間削減という点だけではなく「利用者にとってのケアの質の向上」「職場環境改善」が適切に実現できているか把握して、総合的に評価していただきたい▽生産性向上の取組みが表面的な数合わせになっていないか確認し適切に評価していただきたい▽直ちに介護施設一般の基準として適用しないようお願いしたい——と、性急な議論にくぎを刺した。

そもそも生産性とは、工場などモノづくりでの生産能力・効率などの「物的生産性」と、手を加えることで新たに付け加えた価値を表す「付加価値生産性」がある。

介護の場合は後者の付加価値生産性で、介護職の業務仕分けをし、「ムリ・ムダ・ムラ」を改善し、補助人材やテクノロジーによるタスクシフトをしつつ、日常的に使用する用具・用品の活用によって、利用者のサービスの質向上や満足度の向上という付加価値向上を実現することが求められる。



出典：内閣府規制改革推進会議 規制改革実施計画関連資料集より



出典：「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン 改訂版」より

付加価値生産性の恩恵を感じやすいものに、排せつケアの最適化がある。質の良い睡眠が日中活動の増大につながり、その人らしい過ごし方や、日中活動量の増大による自立支援介護の実現など好循環の中で付加価値創造につながっていく。

2040年の介護人材不足の深刻化の中で、介護施設が向かい合うことになるケア現場の生産性向上について特集する。

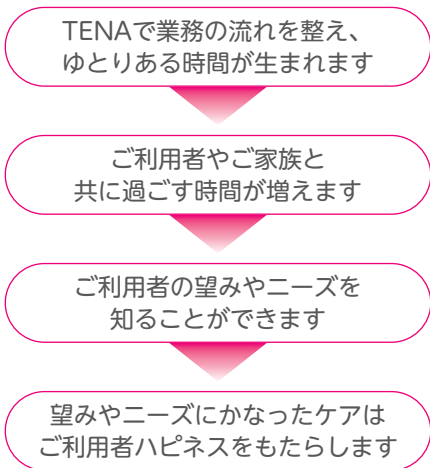
(記事制作：シルバー産業新聞社)

コンテンツ

- ＊ 2ページ 「コンチネンスケアを通じた生産性向上」
- ＊ 3ページ より良いケアを実現するための「TENA製品情報」
- ＊ 4ページ 特別対談 物価高騰で試される「サービスの質」「生産性」の向上（ダイジェスト版）
メグラス飛田拓哉代表取締役／中島加織社長／ユニ・チャームメンリッケ森田徹社長

私たちが考える コンチネンスケアを通じた生産性向上

お花を愛でたい人、お茶を楽しみたい人、絵を描くのが好きな人。それぞれの望みを支える個別ケア。それには、ご本人の望みに基づき可能性を広げるために何ができるかを考える介護者の時間と心身のゆとりが大切です。もし考える余裕を持つことが難しいようなら、まずは業務のムリ・ムダ・ムラを減らし、負担と負担感を減少し、業務の流れを整える。そうすることで、ゆとりある時間を生み出します。ご利用者やご家族とともに過ごす時間が増えれば、ご利用者の望みやニーズを知ることができます。



流れの整備

TENA製品の種類や特長を知り、基本パターンに沿って施設全体の業務の大きな流れを整えながら、ムリ・ムダ・ムラをなくします




困難事例への対応力強化

基本パターンに当てはまらない方は人数を把握して優先順位をつけ、個別アセスメントに基づきパターン設定し業務の流れに組み込みます

自立支援

本人の望みに基づき可能性を広げるために何ができるか考え、身体と心のどちらの欲求も満たすことのできるコンチネンスケアプランに取り組みます

■ コンチネンスケアに潜むムリ・ムダ・ムラ

	介護現場での一例	TENA アドバイザーはこう考えます
ムリ  設備・人材の心身への過度の負担	体重 80kg の男性利用者のポータブルへの移乗を、女性介護職員 1 名で対応する	ムリをなくすために有効だったこと <ul style="list-style-type: none"> ・オムツ交換回数、タイミングの見直し ・時間ごとのトイレ誘導人数とスタッフのバランス調整
ムダ  省力化できる業務	オムツの補充が間に合わず、入浴介助中に倉庫まで取りに行かなければならない時がある	ムダをなくすために有効だったこと <ul style="list-style-type: none"> ・改善活動の記録と分析 ・仕事のしやすさを考えた手順の見直し
ムラ  人・仕事量の負担のばらつき	職員が 2 名いる日はオムツ交換も順調だが、1 名しかいない日は残業している	ムラをなくすために有効だったこと <ul style="list-style-type: none"> ・現場の「なぜ？」を一緒に考える勉強会 ・事前のキックオフ宣言から始まる組織的取組み

■ 目指すのは【生産性 5%改善】×【ご利用者ハピネス】の同時実現

量的な効率化によって生まれた時間を有効活用して、ご利用者に向き合う時間を増やしたり、手をかけるべきところに向けられるケア態勢を整えて、ケアの質向上を目指します。またご利用者の笑顔が増えれば、介護者のやりがいにもつながります。

	量的な効率化の例	質の向上=ご利用者ハピネスへ
交換パターン	平均交換回数 4.0 回を 3.8 回に抑える	ケア前後に ご利用者と言葉や笑顔 を交わす
トイレ誘導	1 回あたりのトイレ誘導にかかる時間を 2 分短縮 する	2 人介助が必要な方 に人手をまわして安全を確保
業務態勢	20 人でやっていた仕事を 19 人で行う	トイレの サインを見逃さない見守り態勢
導線や在庫の整理	1 時間強かかっていた業務を 毎回必ず 1 時間以内 に完了する	生み出された時間を 食事介助に充て てたくさん召し上がれるようにする

TENA製品情報

リニューアルポイントを
動画でご紹介しています！



より快適なケア提供のために、より簡単に

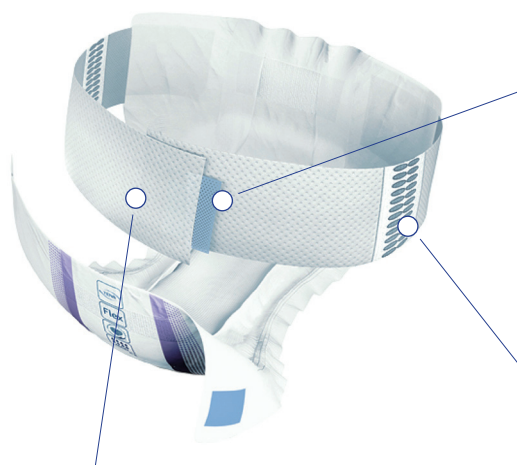
新しくなった TENAフレックス をご紹介します

人間工学に基づいたデザインが特長のTENAフレックスは、日本では2003年秋に発売開始。身体にフィットする革新的なベルトタイプはこれまで多くの改良を重ね、ご利用者には安心と快適性を、介護する側にはシンプルなケアスタイルをご提供してまいりました。

そして、このたび2つのユニークなデザインを追加しました。

扱いやすさアップは、業務効率改善の一歩であり、スムーズな交換はご利用者にとっての安心感にもつながります。

より扱いやすく 2つの改良



ベルトがグレーから白色に



フィンガーリフト追加

Smart FingerLift™

白色のベルトに青色の「フィンガーリフト」を追加。ベルトの開口部が一目でわかりやすくなりました。



可視化された コンフィストレッチ

Redesigned COMFI Stretch™

様々な体形、動きにフィットするコンフィストレッチは、その伸縮性を可視化する柄を追加



TENAフレックス ラインナップ

TENAフレックスは吸収ランクやサイズを幅広く取り揃えています



吸収ランク名	プラス(青)	スーパー(緑)	マキシ(紫)	アルティマ(白)
ウエストサイズ/吸収量				
S (61-87cm)	600cc	800cc	1000cc	1150cc
M (71-102cm)	700cc	850cc	1100cc	1250cc
L (83-120cm)	750cc	950cc	1200cc	1400cc

特別対談

物価高騰で試される「サービスの質」「生産性」の向上

世界的な原油価格高騰や食料価格の上昇の中、慢性的な介護人材不足も抱える介護事業者がとるべき対策はなにか。話題のテーマについて、医師で外資系コンサルティングファームへの勤務経験など異色の経歴をもち、住宅型有料老人ホームや小規模多機能型居宅介護、グループホームなどを経営する株式会社メグラス（名古屋市）の飛田拓哉代表取締役、社長の中島加織氏と特別対談を実施しました。



ユニ・チャームメンリッケ

森田徹 社長



メグラス

飛田拓哉
代表取締役



中島加織 社長

コスト高騰と生産性向上

森田：昨今の話題は原油価格や物価高騰による影響です。メーカーは材料費高騰で値上げが始まっています。介護施設や通所サービスであれば、送迎車両のガソリン代や、光熱水費や食材料費など、あらゆるものがコスト高になる中、サービスを維持し、高めていくことが求められています。

このような状況では、生産者（メーカーや介護サービス事業者）が消費者（介護サービス利用者）のためにすることは、生産性を上げることが大切だと考えます。

飛田：コストの上昇への対応といわれても、円安や様々な要因もあり、構造的なもので対応が難しいですね。

為替や原油・物価、エネルギー価格高騰等により、これからは「コスト増を誰が負担をするのか」という状況になると考えています。光熱水費で言えば、1人当たり年間6万〜7万くらい値上がりは避けられそうにありません。

電気代は特に凄くて当社全体で月100万円上がりました。これまでも、あらゆる節電に取り組んでいますが、せいぜい5%削減くらいで、それを上回るペースであらゆるものが値上がり続けている。このままいけば、介護施設では、日々の介護サービスの回数を減らすなど、ステルス値上げをせざるを得ないようになるのではないかと思います。

介護現場に求められる「付加価値向上による生産性向上」

森田：生産性あげるやり方は一般的に「コスト下げる」、もう一つは「付加価値を上げる」の2つあると言われていま

す。でも昨今の状況下ではコスト下げるのは限界あり、付加価値を上げるやり方について、もっと取り組むべきではないかと思います。

飛田：利用者の生活に関して全方位でサービスを提供することが求められるのですが、1人1人こだわりは違います。お茶の香りが好きな人がいれば、絵描くことが好きな人は「外が見えなきゃ嫌だ」と要望をもたれている。そうした付加価値をどこまでカスタマイズして提供できるかと考えると、コスト的には採算に乗らないのです。排泄ケアは、つけ心地の良さとか、非常に訴求しやすいポイントになります。特に、夜間に起こされずに済むことは、すごくわかりやすい付加価値といえます。

自立支援に求められる視点

中島：当社の利用者は「自分のADLを向上させようと、リハビリを頑張る人」「どれだけ声かけても全然、頑張ってくれない人（やってもらうのが当たり前になってしまう人）」と2極化しており、そこに社員がアプローチするのが難しいのも現実です。

当社ではユニ・チャームメンリッケのTENAシリーズを使っているのですが、リハビリなどで非常に体を動かしやすいおむつだと実感しています。おむつを使用していることが分からないほど、すごくシルエットがいいので活動をした方にとってはとても良いです。

森田：ありがとうございます。当社はCST（コンチネンスサポートチーム）活動支援で全国の施設様にお伺いしますが、皆様それぞれにより良いケアのための取組をされています。施設様での素晴らしい取組を当社からもしっかり伝えさせていただきたいと思っています。

シルバー産業新聞が運営するウェブサイト「ケアニュース」にて全文掲載中です



より良いパートナーであるために

私共がこの『リーエンダ with TENA』を発行し続ける目的は、極めてシンプルではありますが、「より良いコンチネンスケアの実現を求めて改善の動きを止めない」ためと言えます。私は改善が止まってしまう理由の一つには、「モノの見方や考え方が硬直化してしまうことで、新たな発想が出なくなる＝マンネリ化」があるのだと考えます。そしてそのマンネリ化を予防する最大策が「新たな情報に触れること・新たな人に会うことによって、自分や組織を意識的に活性化に向かわせること」ではないかと考えています。この『リーエンダ with TENA』がそのような貢献の契機となれば嬉しく思います。さて先日株式会社メグラス様の飛田代表と

中島社長と生産性向上をテーマした対話の機会をいただきました。あらゆるものの資材価格や光熱費が高騰し、また長期に渡る円安傾向が続いている状況下においては、まさに生産性向上の視点での現場改善の取組みが加速すると考えます。本来必要のないムリ・ムダ・ムラを抑制するためには、「①本来目的に返る②仕組みの不具合を見直す③学ぶ」が不可欠です。「①コンチネンスケアの目的に返る②ケアルーティンの現状を点検し流れを整備する③勉強会で役立つ知識と情報を得ることで意欲を高める」ことが、『コンチネンスケアを通じた生産性向上』への



取組みであると信じ、今まで以上に改善へのご支援ができれば幸いです。

ユニ・チャームメンリッケ株式会社
代表取締役社長 森田 徹
(2022年9月)